

# 仮設住宅×緑のカーテンプロジェクト 2025

団体名●井川ゼミナール／代表者名●井川貴裕（人間科学部スポーツ学科・助教）

## はじめに(背景・目的・目標)

緑のカーテンとは、ゴーヤのつるや葉を利用して建物の窓辺を覆い、直射日光を遮ることで真夏の暑さ対策やプライバシー保護、景観美化を目的とした取り組みである。本活動では、NPO 法人緑のカーテン応援団が実施する能登町および穴水町の仮設住宅への緑のカーテン設置活動に参加した。参加にあたって、スポーツ学科井川ゼミ3年生の学生を中心に、経済学部3年生および子ども学科1年生も加わり学部横断的な体制での活動を行った。

## 活動内容

能登地方の仮設住宅にて、緑のカーテンを設置するため、ゴーヤの苗の植え付け作業を行った。活動日および参加人数は以下の通りである。5月24日：能登町、参加者3名（スポーツ学科3年生2名、教員1名）、6月7日：穴水町、参加者4名（スポーツ学科3年生2名、子ども学科1名、教員1名）、6月8日：穴水町、参加者6名（スポーツ学科3年生3名、経済学部2名、教員1名）。

活動は、まず初めに仮設住宅のベランダ部分へプランター、土、苗などの資材の運搬を行った。その後、ゴーヤのつるを張り巡らせるためのネットを設置した(写真1)。ネット設置後、プランターに土を入れ、ゴーヤの苗を植え付けた(写真2)。

苗の植え付けの際は、仮設住宅にお住まいの方々へ直接お声がけを行い、水やりの方法や管理方法などの説明を行った。住民の方々とのコミュニケーションを大切にしながら活動を進めた。

## 成果、結果の考察

本ボランティア活動の参加を通して、仮設住宅にお住まいの方々との交流を深めるとともに、被災地の現状を実際に目で感じる機会を得た。また、仮設住宅特有の課題（暑さ、プライバシーの確保など）について理解を深めることができた。参加した学生からは「作業する中で復興活動に取り組む団体の方とも交流でき、能登の今を肌で感じる貴重な経験となった。」「仮設住宅にお住まいの方々の優しい姿や元

気な顔を見ることができて、能登はやっぱり良いところだなと感じた。」などの感想があった。本活動は、緑のカーテン設置という環境整備の支援だけでなく、学生にとって地域社会や復興支援の意義を学ぶ貴重な実践機会となったと考えられる。

## おわりに

本活動にあたりご指導ご協力いただいたNPO 法人緑のカーテン応援団の皆様、共に活動した団体の皆様、そして温かく迎えてくださった仮設住宅にお住いの皆様に心より感謝申し上げます。今後も、能登地域の震災復興に向けた支援活動に継続的に取り組む、地域社会に貢献できる実践を積み重ねていきたい。



写真1 脚立を使用してネットを設置



写真2 他のボランティアと一緒に苗の植え付け